

平成二二年九月東北大学学位記授与式告辞

本日ここに学位を授与された諸君に、東北大学を代表して心よりお祝い申し上げます。また、留學生の諸君においては、言葉、文化、習慣などの壁を克服し、学位を取得された今日までの努力に対して深く敬意を表します。そして、今日の日に至るまで諸君を支えてこられたご両親、ご家族、関係者の方々にも、心からお慶び申し上げます。

東北大学は明治四〇年（一九〇七年）の建学以来、「研究第一主義」の伝統、「門戸開放」の理念及び「実学尊重」の精神を基に、研究の成果を人類社会が直面する諸問題の解決に役立て、指導的人材を育成することによって、平和で公正な人類社会の実現に貢献してきました。その歴史は、東北大学に関わる人々のたゆまぬ挑戦の歴史でもあります。

目を世界に転じますと、経済危機をはじめ、環境問題、エネルギー問題、少子高齢化問題、食糧問題、ウイルス問題など、空前のスケールで展開する深刻な課題に直面しています。こうした諸課題についても、総合大学という立場から人類社会に貢献する研究・教育を創造していくことが、世界リーダーング・ユニバーシティを目指す本学の役目だと考えています。

このような世界的な潮流を捉えて、世界リーダーング・ユニバーシティへの取組を宣言した井上プラン（東北大学アクションプラン）を発表してから三年半。本学が世界の教育研究拠点としての取組を続けていく中で、その国際的プレゼンスは着実に上昇していることを実感しています。

本日学位を授与された諸君は、その東北大学で、「Challenge（挑戦）」、「Creation（創造）」、「Innovation（革新）」という三つのキーワードを基軸に行動する研究マインドをもって、それぞれの専門分野において深い研鑽を積み、高い学識を修得しました。本学で学んだ諸君は、人類社会への貢献を目指して行動する気概を胸に、東北大学で学んだことに確信をもち、グローバルな事象で揺れ動くそれぞれの活動の場で是非汗を流していただきたい、そう願っております。

こうしたことを考えてみると、私の尊敬する企業家、稲盛和夫さんの言葉が頭に浮かんできました。彼がアメリカの現地社員に熱く語った経営哲学の記録の中に、こんな言葉があります。

「平均的な人間は、どうすれば大きな成功をなし得るのでしょうか。次に掲げるごく単純な方程式が、

この問いに答えてくれます。人生の結果＝能力×熱意×考え方」

注目したいのは、この方程式の三つの要素は足し算をせずに掛け算をしており、能力と熱意は〇点から百点までありますが、考え方はマイナス百点からプラス百点まである、ということなのです。つまり、どんなに能力や熱意があっても、その考え方がマイナスであれば、結果はすべてマイナスになるのです。私は世界的にみて文明の衝突によって生じている争いを大変残念に思っております。異なる思想、文化、人種、宗教間の争いの終わりが見えません。能力や熱意をもった人たちが、強烈なマイナスの考え方をもって発せする反社会的な出来事が何と多いことか。「人間は、孤独な存在であるのと同時に、社会的な存在なのです。」というアインシュタインの有名な言葉を思い出してください。寛容の精神を大切に社会に貢献するというポジティブな考え方、ここからすべてはスタートするのです。そして、その考え方が、自分の人生や仕事の成功に対して大きな決定力をもっているのです。

人類社会への貢献というと、諸君は自分たちに関係のないことだと断じてしまいがちですが、常に自分の考え方をポジティブにもって、つまり寛容の精神をもって他人を喜ばし、社会に貢献するために何をすべきかをよく考え、東北大学の卒業生としての「自信」と「矜持」を絶えず忘れずに振る舞ってください。東北大学は国のものでも個人のものでもなく、社会のための公器です。諸君は疑いなく、その大学で社会のための成長を遂げてきたのだと確信しています。

ともあれ、若者は偉大な夢を持つべきです。しかし、偉大な夢というのは努力を伴わなければ単なる夢にとどまってしまうということも理解すべきです。日本を代表する哲学者であり、本学の第九代総長である高橋里美先生は、敬愛するケール博士が日頃口にした「天才は常に勤勉」という言葉をかみしめていました。新たな第一歩を踏み出していく諸君の夢は、まだまだ形にならないかもしれません。小さな努力の成果は、結果として現れるまで時間がかかります。稀には暴風雨の来ることもあるでしょう。だからといって、何も焦ることはありません。錦秋を織りなすが如く日々の地道な努力を積み重ねていくってください。大事なものは、自分の選んだ道を信じ、前向きに挑戦を続け、「千里の道も一歩から」を実践して、ゴールへたどりつくまで一ミリずつでも進んでゆく。そんな思いと行動が、夢の実現に至る唯一の確実な方法なのです。

いよいよ諸君の時代を作るのに、諸君の英知と行動が、やがて大きな力となって未来を切り開いていくものと信じる次第であります。

人は言葉で変わり、言葉に支えられることもあります。

第一は、「人生・仕事の結果＝能力×熱意×考え方」。常に自分の考え方をポジティブにもって成功の方程式を生きること。

第二は、「千里の道も一歩から」の努力をたゆまず続けること。

これが本日ここに学位記授与式を迎えた諸君に対する、私からのお祝いのメッセージです。

諸君は、東北大学から株立っても、東北大学のコミュニティの一員です。私たち東北大学は、諸君のこれからの人生にとっていつまでも人生の羅針盤のような存在であり続けたいと思います。この縁に恵まれた美しいキャンパスで培った学友との友情と師弟の絆は、諸君の大切な財産となるでしょう。

東北大学は世界各国からの学生が学ぶ大学です。留学生の諸君には、日本を、そしてこの東北大学を第二のふるさととして、母国と日本との、そして東北大学との架け橋となっていたいだきたいと思えます。

本日の学位記授与式には多くの留学生の諸君がいますので、ここで簡単に英語により送別の言葉を述べたいと思えます。

Now, I would like to switch my speech from Japanese to English, because we have many international students. So I would like to talk directly to them in English.

I, as president of Tohoku University, sincerely hope that your experiences and achievements in Tohoku University shall help you contribute to the development of your home countries and to the world peace through your forthcoming activities.

The line between a successful person and unsuccessful person is as thin as a piece of paper. The difference is tenacity and perseverance. Even when a task seems impossible, we must tenaciously and diligently persevere in our efforts to succeed. Then, I believe you can make your dream come true.

Heaven will not ignore sincere effort and true determination.

Finally, I wish to reiterate my hearty congratulation to all of you, and wish you every success in your future endeavors.

Thank you very much.

本日ここに学士の学位を授与された二六名の諸君、修士の学位を授与された七五名の諸君、専門職の学

位を授与された七名の諸君、そして博士の学位を授与された一三八名の諸君、今日は本当におめでとう。
東北大学で学んだことを大きな誇りとして、高い志をもって不断の努力を惜しむことなく、人生歩んで
行かれることを心より祈念して私の式辞の結びといたします。

平成二二年九月二四日

東北大学総長 井上 明久